

第2回 松山市中心市賑わい再生社会実験専門部会 議事録

- 日 時：2014年10月24日（金） 15:00～17:00
- 場 所：松山銀天街第一商店街振興組合2階
- 出席者：12名

次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員紹介

【事務局】

(挨拶、配布資料の確認、委員紹介)

4. 議事

【委員A】

前回の会議では、地元との連絡体制の強化、適切な広報、プログラムの進め方やひろばの使い方、安全面等、様々な意見が挙げられていた。

まずは、事務局から意見に対する対応について説明をしていただきたい。

(1) 前回意見の概要

【事務局】

(前回意見の概要について説明 資料 1_P.1-1)

【委員B】

ご意見があれば伺いたい。

(意見なし)

(2) ひろば・施設のオープンについて

【委員C】

議事2のひろば・施設のオープンについて説明をしていただきたい。

【事務局】

(ひろば・施設のオープンについて説明 資料 1_P.1-2)

(現地見学)

【委員D】

現地を見学して、ご意見やご質問があれば伺いたい。見学中にトイレに関する意見として、女子

トイレと男子トイレが、逆のほうがいいのではないかという意見があった。

【委員E】

手前のトイレは、多目的トイレかつ、男女共用であるが、入口部の色が赤で、男性のみのマークが目立つので、女性マークにするか、マークをなくすか、誤解を招かない表示が必要。

【委員F】

マークについては、事務局でご検討いただきたい。

【委員G】

手前のトイレマークが男女であれば、問題は無いように思う。

(3) 各種取り組みひろば・施設のオープンについて

【事務局】

(各種活動の報告について説明 資料 1_P.1-3~1-6)

【委員H】

ワークショップで様々なことを議論して、ルールづくりやプログラムのイメージができつつあり、芝張りなどの参加型活動を始めとし、体制が整いつつある。

ただ、部分的な人たちの集まりではなく、後述のアーバンデザインスクールのように、多くの人が参加できる形で進めていくための準備も整いつつある。

施設の使い方に関して、大きなテーブルを置いてはどうかという意見もあった。

【委員I】

最近カフェ業界でも多くなっているが、大きなテーブルを用意すると、自然にいろんなブロックで人が座ることができ、ワークショップや手作り活動など、大勢の人が何かをできるようにするため、1つのアイデアとして面白いと感じた。

【委員J】

コンセプトは、「みんなの」ということで、参加型でいろいろやっていくため、テーブルを始め、スペースの使い方は、工夫し、その都度検討していただきたい。

【委員K】

子供から高齢者まで様々な人が座れることにも配慮することが重要。みんなで座って何かをする日、テーブルを片づけて何かする日があってもいいのではないかと感じた。

【委員L】

収納スペースも限りがあるので、うまく考えていただきたい。

(4) ひろば・施設の運営・管理計画

【事務局】

(ひろば・施設の運営・管理計画について説明 資料 1_P.1-7~1-9)

【委員M】

治安の問題について、この周辺でどういうことが日常的に起こっているのか伺いたい。

【委員N】

商店街内をスケボーや自転車で走ったりする。ダンス程度であればまだよいが、夜間に恐喝や暴行は年に一、二回ある。対策として、防犯カメラを設置したりしているが、効果が薄い。商店街や理事会では、警察との協力体制で定期的な巡回などを相談している。

【委員O】

夜間のひろばへの立ち入りを制限しているが、例えば、商店街の中であれば、ある程度、強制的な制約の世界があっても構わないのが街の姿であるが、「この時間からはだめですよ」という形で締め切ると、本来のひろばとしての役割が失われていくのではないか。例えば照明の加減をうまく取り込むことによって治安が改善できるケースもあると思う。

【委員P】

確かにイギリスでは、青色照明にして犯罪発生件数がぐっと減ったという事例はある。事務局からご意見があれば伺いたい。

【事務局】

専門会やワークショップでもひろばの治安を始め、開放時間に対する意見が多くあった。今後も地元のご意見もいただきながら、運営していきたい。

【事務局】

夜、若者が溜まるなどの不安も多いという意見を周辺へのヒアリングから伺っている。工事期間中の夜は照明を全部落としていたが、暗いから不安だという若い女の方の声も多かった。それらを踏まえ、夜は照明をつけっ放しにして、防犯カメラも映りやすくなるような形で当面の対応を検討している。

【委員Q】

市民の皆さん方の利用実態とか状況も踏まえながら、なるべく公共財としての色を出していければと思う。暗がりをつくると、トラブルが起こるといことが大原則なので、街の皆さんの安全、商店街のイメージの形成にも、ひろばが明るい街並みに貢献できるような形になればいい。

【委員R】

みんなのひろばはどういうふうに閉鎖されるのですか。

【事務局】

当面はコーンとポールを設置する。工事期間中でも立ち入る形跡がなかったため、十分な抑止力があると考えている。

【委員S】

開館時間について、土日祝日 18 時で閉まるのはもったいない感じがする。もし、ニーズがあれば、街中での滞在時間を 1 時間でも長くしてもらえるように開館時間を延ばし、逆に平日はある程度の時間で閉館するなどの管理の仕方があるのではないか。

【事務局】

当面は、ビジネスマンの方にも気軽に寄ってもらい、仕事帰りにお茶をして、雑誌を読んでもらっていただく等の使い方を想定して平日は 20 時までとした。

土日祝日は逆に、家族や若い子供連れの方が 18 時ぐらいで帰宅するという想定で時間を設定している。様々なご意見があるので、柔軟に考えたい。

【委員T】

ゴミ箱は設置されるのか。街中を綺麗な環境で保つためのゴミの処分に対するフォローについて確認したい。

【事務局】

ひろばへのゴミ箱の設置は、考えていない。ゴミは持って帰っていただくのが原則と考えている。施設には、ゴミ箱を設置するので、どうしても必要であれば、そこを利用していただくことになる。

【委員U】

タバコのポイ捨てや、ゴミの持ち帰りの忘れなども想定されるので、ひろばへゴミ箱を設置しないのであれば、定期的な見回り等を考えていただきたい。

【委員V】

アーバンデザインセンターから何かご意見があれば、伺いたい。

【委員W】

運営時間は、地元の方やユーザーの方のご意見を聞きながら、徐々に延ばしていくことも考えられる。スタッフの数も十分ではないため、今後、「手伝ってあげてもいいよ」という声が出てきたときに管理と一緒にお願いするとか、そういう活動が出てきて初めて時間を延ばすことになっていければと考えている。

【委員X】

トラブルが起きないようにするというところが非常に重要なので、事務局等で十分検討していただきたい。

(5) 効果検証

【事務局】

(効果検証について説明 資料 1_P.1-10)

(今後の進め方・スケジュールについて説明 資料 1_P.1-11)

【委員Y】

(アーバンデザインスクールについて説明 別途配布資料)

【委員Z】

来訪者が自転車で来た時に駐輪場所についての問い合わせも増えると考えられる。常駐のスタッフが駐輪場を指示できるように、一連のマニュアル等が必要だと思う。

また、徐々に人気が高まるようになると、イベント時などは、かなりの来場者になることも懸念されるため、周辺の自転車駐輪場のキャパオーバー等の問題は想定し、周辺への路上駐輪等が発生しない対策は検討しておく必要がある。

また、自動車の通行が懸案であり、イベント時などの道路規制なども警察・地元商店街とも連携しながら、危機管理面について、検討する必要がある。

最後に、効果検証について「こういうイベントを打ったときにこういう形で自転車や自動車が増えて困った」という課題検証も想定しておく必要はあると感じた。

【事務局】

自転車については、すぐ近くの駐輪場や河原学園の地下駐輪場、大街道の駐輪場などもあるので、案内できるマップのようなものができたらいいと思っている。

自動車についても、警察や地元などにも相談しながら今後検討していきたい。

【委員AA】

11月1日のイベントの地図の中にも駐輪場をちゃんと書き込まれているので、こういう広報の度に「この施設に来るときには、ここの駐輪場だ」というような意識付けやサインなどによって、ルールが生まれてくるとよい。

【委員BA】

運営管理について、多目的スペースは20時までやっているが、運営・管理は、17時半までとなっている。時間外の管理・運営は誰がするのか。

【事務局】

17時半までの利用時間以外の時間帯については携帯電話が緊急連絡先としてあるので、17時半以降も管理・運営を委託している業者となる。

【委員CA】

例えば、22時以降についても携帯での連絡体制をとっているということで理解した。

【委員DA】

トラブルが起きないようにするということが一番重要であるが、警備会社との契約とかは特になのか。

【事務局】

建物には機械警備を考えており、ひろばの方は、防犯カメラで対応する。

【委員EA】

了解した。

【委員FA】

アーバンデザインスクールについては、各大学が連携した大学主催のスクールであるが、他にもいろんな形のスクールがあると思う。料理や名産品を使った教室をする等、自主的なものが生まれてくると思うので、ワークショップに参加された方々や大学の方々が発展的なものを検討していただければと思う。

【委員GA】

ひろば・施設の運営管理の22時までの利用について、仮に月から金までの毎日入った場合でも受け付けるのか。例えば、月に何回と決めるとか、常駐者の負担も考える必要がある。

施設の無料使用に対するボランティア清掃については、必ず清掃をしてもらうということを条件にするというのも一つの手だと思う。

また、ひろばの清掃や運営管理計画、緊急連絡先、ルールはどのように周知していくのか。

最後に、施設の鍵の管理はどうされるのか。

【事務局】

22時までについては、負担が大きいようなら何か考えていきたい。

ボランティアの実施は、呼びかけだけではなく。「清掃をして帰ってください」「ボランティアをして帰ってください」ということはお伝えしたいが、活動の前にするか、後にするかについては、柔軟に検討したい。

電話番号については、別紙1と別紙2をお配りしているが、こちらにお問い合わせ先ということで電話番号を書くようにしている。別紙2で詳しい使い方の内容、利用案内を示しており、これを施設やホームページに掲載することを考えている。ルールについても同様。鍵は常駐のスタッフが管理する。

【委員HA】

ルールをひろばに掲示しないのか。

【事務局】

利用のルールをパネルにして、ひろばの手前のサインに掲示する予定である。

【委員IA】

実際、20時までの常駐の中で、延長時間やアーバンデザインスクールが開講されるのは20時半までなので、その辺りの整合性をとって運営していただきたい。

観光面で言うと、松山に来られた観光客の方が、この施設へ家族で行っていただくとか、将来的には、市民の憩いだけではなくて、観光にも配慮していただきたいと思う。

【委員JA】

許可基準について営利を目的とした使用に該当しないかどうかとは、具体的にどのようなものを示すのか。

【事務局】

商売だけが目的でなければ、許可してもよいと考えている。例えば、手づくりのものを1日だけ販売するとか、そういったことについては基本的に大丈夫だと考えている。

ただ、それが複数日の連続使用ではないかとか、定期的に誰かの既得権になるような使い方、例えば「火曜日はこの人で決まっている」みたいな、そういった使い方は避けたいので、そういった使い方をする場合には、簡易な審査ではなくて、月に1回運営委員会で判断したいと思っている。

【委員KA】

アーバンデザインという意味で、街の新しい商いのやり方を提案することは重要なので、是非やっていただきたいが、運営会議の中で、積極的に議論して取り入れていくような姿勢を持つことが大事である。

(質問・意見なし)

【委員LA】

管理については、初期トラブルも相当出る可能性があるため、最初の1カ月ぐらいはみんなチェックして、直していくということをベースに考えることが大事である。

オープンイベントにおいてもできる限り広報し、関与してくださる方、ファンを増やしていくというようなことも必要である。

この松山市の新しい取り組みについて仲間を増やしていくということができればと思う。

5. 閉会
(閉会挨拶)

以上